

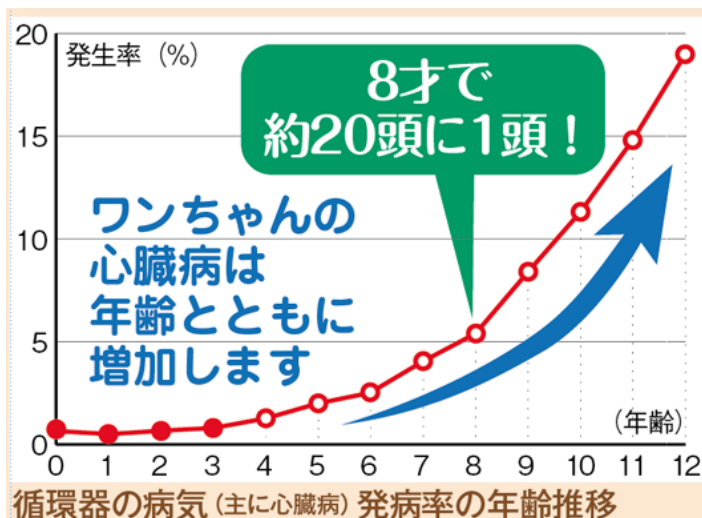
健康診断は、病気の早期発見、早期治療のほか、検査結果から身体の発する危険信号が察知されることで生活習慣の改善を促し、病気を予防するといった大切な役割を担っています。

## わんちゃんやにゃんちゃんには こんなメリットがあります。

- もし、病気が見つかったとしても、元気なうちなら早く治療に入れて、安心です。
- それぞれ検査をするよりも、まとめて行ったほうが、より総合的に診断できます。
- 検査料金は通常の診療で行った場合よりお安く設定されております。

・動物たちの健康を守るためには、「予防する」「検診をする」ということがとても大切です。

・1年で4~5才年をとるといわれていますので、ある程度年を重ねてきたら定期的に健康診断を受けさせる事をお勧めしてください。



## 健診の基準値、正常値とは？

・健診結果をもらうと、必ず基準値が記載されており、その値と比較して自分の数値が外れているかどうかで、「正常か、異常か？」を判断しているのではないのでしょうか。

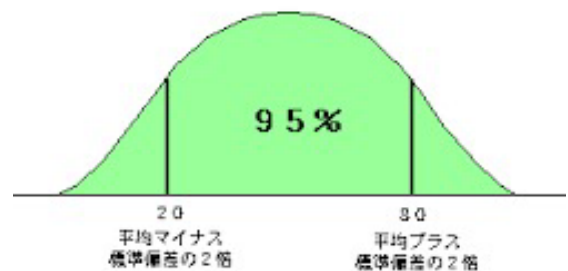
しかし、ここには落とし穴があります。健診だけで、正常・異常を判定するものではなく、「基準値」の考え方を知ったうえで、対応策を考えることが大切です。

## 基準値の作り方

大きく2つの決め方があります。

(1) 健常人のデータを集め、その検査値の分布から求めたもの：

多数の健常成人に検査を行い、平均値から対象者の95%を含む範囲(平均±2SD)を基準範囲とするものです。肝機能検査や貧血検査などがこの方法で定められています。普通、人間では40~60歳代のデータをもとに作成されているので、高齢者では基準範囲をややはずれていても、すぐに「異常」というわけではありません。動物たちも同じです。



(2) 疾病の発症率などの疫学調査研究をもとに定められたもの：

上(1)の方法でもとめられた基準値の範囲内であっても、病気を起こす可能性が高いのであれば、それは「正常」とはいえません。そこで、生活習慣病の基準値は、有病率や将来疾病を起こす危険性に関する調査を参考にして、各学会が定めたものです。

## ★「異常なし」は「心配なし」???

・健診結果「異常なし」は将来病気にかからないという保証ではありません。

あくまでも受診された時点の状態です。診断結果を過信しすぎないようにし、常に健康を維持する生活を心掛けましょう。

### ○忘れてはならない、個人の基準値

基準値の手法(1)では、もともと健常人の5%は基準範囲を外れていることとなります。たとえば、貧血検査であるヘモグロビン値では、常に正常下限をやや下回っているが、他に病気もなく、長年にわたり数値が安定している人は、「個人の正常値」が低めであると判断します。

またその逆に、「基準値内におさまっているから大丈夫」でもありません。1年前のヘモグロビン値が15.2mg/dl、今年が12.8mg/dlというように、いずれも基準値内ではあるが、1年間に2~3mg/dlも低下している場合には、病気がかかっているかもしれません。消化管出血、その他の疾患などの可能性を考慮する必要があります。

## ◆ペットの生活習慣病について◆



・室内飼育の動物にありがちな「おやつの過剰摂取」と「運動不足」は肥満の大きな原因です。犬や猫も人間と同様に、糖尿病や高脂血症、脂肪肝などの生活習慣病がふえてきています。過剰な給餌、室内飼育による運動不足等により、小動物でも生活習慣病に罹患するケースが増えております。

例えばワンちゃんの場合、心臓疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、糖尿病、その他に含まれる生活習慣病を合計すると、高齢疾患の3割を超えるまでになってきています。ガンで生活習慣病に誘発されるケースを含めると、いまや最大の高齢疾患と言えます。

今回から(株)レイテックス 代表取締役 米村 勝氏のご協力で凝固についてのシリーズを始めます。

### 1. はじめに——血が固まる不思議

私達や動物の身体の中には血液が流れています。

生きていれば常に流れ続けていて、どこかで渋滞を起こしたり、外に漏れたりすることはありません。しかも「ケガ」をすると、その部分で血液が固まって出血を防ぎます。しかも血液が凝固すると、そのことを出発点として皮膚や血管の再生が促進されて、元の通りに治ってしまいます。こんなことが起こるなんて、「とっても不思議なこと」と思いませんか？

### 1. 進化のたまもの

人や動物が生活していて、祖先は野山を駆け回り、その間にケガをしたり、あるいは虎やライオンなどの動物に攻撃されて出血したりしたでしょう。その時速やかに出血を止める作用のあるヒト or 動物が選り抜かれ、その遺伝子が広く伝えられることにより、今日のヒト or 動物の血液の凝固能に至ったと考えられます。

例えば、狼犬はイノシシやクマに攻撃されてケガした場合、出血が早く止まる程、生き残り、子孫を増やす確率が増えます。またネズミやウサギは捕食動物から攻撃を受けますから、やはり血液凝固能力の高いものが繁殖します。

逆に、ウシは、オオカミなどの強敵から人間が保護してくれると共に、出産の補助さえしてくれます。牛乳さえ沢山製造していれば血液を凝固させる能力を強化する必要はありませんでした。ですから、ウシ・ウマ・ブタ・ヒツジなどの家畜は凝固能力が低い傾向にあります。

